

令和8年度 真庭市立湯原中学校 学校経営計画書

1 内外の環境分析

本校は1992（平成4）年に二川中学校・湯原中学校の両校が統合し湯原町立湯原中学校となった。2005（平成17）年には町村合併により真庭市立湯原中学校に校名を改称した。準へき地指定校である本校学区には、統合により湯原小学校（準へき地）のみの一小一中となっている。

また、本校は米子自動車道・湯原I.C.にほど近く、学区のほぼ中央には岡山県三大河川の一つである旭川が流れ、本校が所在する湯原地域は、羽柴秀吉の側室・おふくの方の湯治場として大衆に広く知られるようになった湯原温泉があり、全国露天風呂番付で西の横綱と称される露天風呂「砂湯」をはじめとする5つの温泉場等の観光資源、大河ドラマで宮本武蔵が吊されたロケ地にもなった佐波良の大杉、特別天然記念物「はんざき」ことオオサンショウウオ生息地などの豊かな自然、また、和気清麻呂のルーツと言われる豪族・佐波良一族と延喜式内八社など、歴史文化にも恵まれた地域、落ち着いた環境のもとにある。

■総合的な学習の時間に『湯原学講座』と称し、学区内の事業所等と連携し、地域の人・もの・ことに関わりながら、郷育を核としたキャリア教育・探究学習を推進している。

■在籍生徒数が少ないことを利点とし、一人一人に寄り添った個別最適化学習、ICT活用による授業のユニバーサルデザイン等の在り方を追究しつつ、インクルーシブ教育・非認知能力の育成を推進している。

2 校訓

自律 ・ 向上 ・ 友愛

3 学校教育目標

新しい時代を生き抜く生徒の育成

4 本校のミッション(使命・存在意義)

■「つなぐ9年間」

地域・小中学校で連携し、一貫した成長を支える。

■「拓く主体性」

未知の課題に挑み、自ら考え行動できる実践力を育てる。

■「誇る郷土」

湯原学を通じて、地域から社会を豊かにする発信力を育む。

■「築く基盤」

ICTと非認知能力も活用し、未来を生き抜く資質・能力を育てる。

5 本校のビジョン(将来像・目指す姿)

(1) 目指す学校像 「一人一人の挑戦を、地域とともに支え抜く学校」

- ・「自分らしくていい」と実感できる環境を守り、可能性を追求できる学校
- ・夢や未来を、世代を超えて語り合える学校
- ・「学びのフィールド」である地域に根付き、地域とともにある学校

(2) 目指す生徒像 「問いを立て、未知の未来を自ら切り拓く生徒」

- ・正解のない問いに、自ら考え自律的に判断・挑戦する生徒
- ・夢に向かい挑戦し続けるしなやかさをもった生徒
- ・ICTも活用し、生涯に渡る「学び方」を習得する生徒

(3) 目指す教職員像 「情熱をもって伴走し、自らも学び続ける教職員」

- ・生徒の可能性を信じ一人一人の成長に深く寄り添う教職員
- ・地域・保護者と連携し、一体となって目標に向かう教職員
- ・高い倫理観をもち、時代に合わせて学び続ける教職員

6 本年度の重点目標

主体的に探究し続ける生徒の育成

7 本年度の重点取組

- (1) 【知】「正解のない問い」へ主体的に挑み続ける生徒の育成
 - ・自ら問いを立て、**納得感のある探究的取組**の実践
 - ・学習や経験を発展的に家庭学習や実生活へと繋ぐ「**学びのサイクル**」の構築
 - ・ICTも活用し、**学びを自らのことばで説明できる能力**の育成
- (2) 【徳】自分を認め、立場を超えて、他者とともに新しい価値をつくり出す力の育成
 - ・**自分と向き合い**自分らしさを追求しながら深める自己理解と他者受容
 - ・失敗も成長の糧と捉え、困難なことも**やり抜くたくましさ**の育成
 - ・他者とつながりながら、生活にいかせる**非認知能力**の育成
- (3) 【体】健康・安全に未来を生き抜くエネルギッシュな心身の育成
 - ・食事・睡眠・運動を通じて心身を**セルフケア**できる能力の育成
 - ・ストレスを適切にマネジメントし、**健やかな心のエネルギー**を維持する力の育成
 - ・自助・共助の精神を培い、安全についての実践的な能力の育成
- (4) 【郷】「湯原学」を核とした郷土愛の育成
 - ・地域資源から学びとる力と、社会を豊かにする発想力の育成
 - ・地域と連携し、郷土・湯原の活性化に向けて**主体的に考え、発信**する実践力の育成

8 令和8年度の学校経営アクションプラン重点目標（知・徳の領域）

（知の領域）

- 「**あれ!? なんで?**」→「**あっ! そうか!!**」→「**こういうことだよ!**」
（**問い立ての自分事化→見方・考え方…納得感→主体的な言語化**）
「自分の考えたことを人に伝わるようにまとめることができる」【現況値 82.4%】

（徳の領域）

- 「**自分と向き合い、やり抜く力の育成**」（**非認知能力、自己指導能力**）
「難しいことでも、やり抜くように努力している」【現況値 85.3%】